

令和5年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) 三木市立広野幼稚園

観点	①心の育ちを優先し、生きる力の基礎を育む教育・保育
項目	内 容
園の現状や 取組、課題	・今年度は、5歳児のみ少人数の生活となり、少人数と集団での生活を重ね合わせながら、近隣の自由が丘幼稚園と遊びや生活、行事などで交流している。園での生活の中で、表現遊びを中心にしながら心の育ちにつながる保育を目指している。
目標	・遊びを通して、思いをのびのびと表出し合う中で、人とのかかわる楽しさを味わい、友だちの思いに気づいていけるようにする。また、言葉だけではなく、全身を使った表現遊びから、友だちとの気持ちの交流がもてるように支え、自己表現の喜びを感じることで、一人ひとりの自信につなげていく。
目標達成 に向けた 具体的な 取組内容	・子ども一人ひとりの個性や特性をふまえた保育者の関わり方や、支援方法について日々の保育を見直し、職員間で共通理解する。また、保育者の主観だけではなく、多面的に幼児理解をしていくために、講師を招いて継続的な園内研修会や研究を行い、その子に応じた手立てを見出し、職員が同じ方向性をもって支援できるようにする。 ・表現遊び中心にした子どもの姿の事例をもちより、友だちとのかかわりや自己表現の深まりを通した心の育ちについて分析していく。
成果	・毎日の職員会議に加え、継続的に講師を招いて園内研修会を行うことで、保育を客観的に捉え見直すことができ、また、それを教職員全体で共有することで、職員が同じ思いをもって、多面的に幼児理解を深め、子どもたちとかかわったり支援したりすることができるようになった。 ・移ろいゆく季節の中で感じたことを言葉だけに頼らず、全身を使った表現遊びを通して思いの交流を楽しむことができた。また、そのような日々の積み重ねの中で、子どもたちに内在する思いが言葉となって表出することにもつながり、友だちの思いを推測し、思いやりの気持ちをもってかかわることができるようになってきている。また、表現遊びでの思いの交流だけではなく、例えば、壁を登っていくカエルの様子を見て、カエルの手の吸盤に興味をもっていろいろ試して遊ぶなど、豊かな自然を通して自分のペースでとことん興味を深めていく姿が見られ、少人数だからこその個々の内面の育ちも感じることもできた。
評価	5歳児2名の生活だが、その分よく目が行き届き、子どもたちそれぞれの特性を考慮した丁寧できめ細かな保育の実践が行われている。その中で二人の子どもたちは伸び伸びと自分らしさを発揮し、活動している。また、恵まれた自然の中で様々な生き物との関わりや隣接する小学校での防災訓練への参加など、経験や体験を重視した取組みを大切にして日々の活動が行われている。さらに、近隣の自由が丘幼稚園との行事や遊びなどの交流を通して、少人数のハンデを感じさせないよう配慮がなされている。